

尾張旭ロータリークラブ様

「交通安全教育の重要性と 尾張旭市での交通教育事業」

令和2年 1月10日（金）
尾張旭市商工会館



発表者

- 片山 昇

交通教育NPO OSCNじてんしゃスクール 代表

愛知県自転車安全教育指導員

日本自動車連盟JAF愛知支部交通安全実行委員

元 オートバイ部品メーカー 管理職 元 愛知県 教員

- 熊崎 優

尾張旭市役所 市民活動課 主査

交通防犯係

交通教育NPO

OSCNじてんしゃスクール

(尾張旭・セーフティ・サイクリスト・ネットワーク)



親子で体験！OSCN じてんしゃスクール



森林公園植物園 OSCNセーフティ！サイクリング



学校での自転車交通安全授業



子ども・大人・親子が、楽しく学べる自転車の交通安全教育

行政・警察・学校・民間企業との連携や協働により
地域で考え推進する交通安全教育の展開



www.oscn-school.org

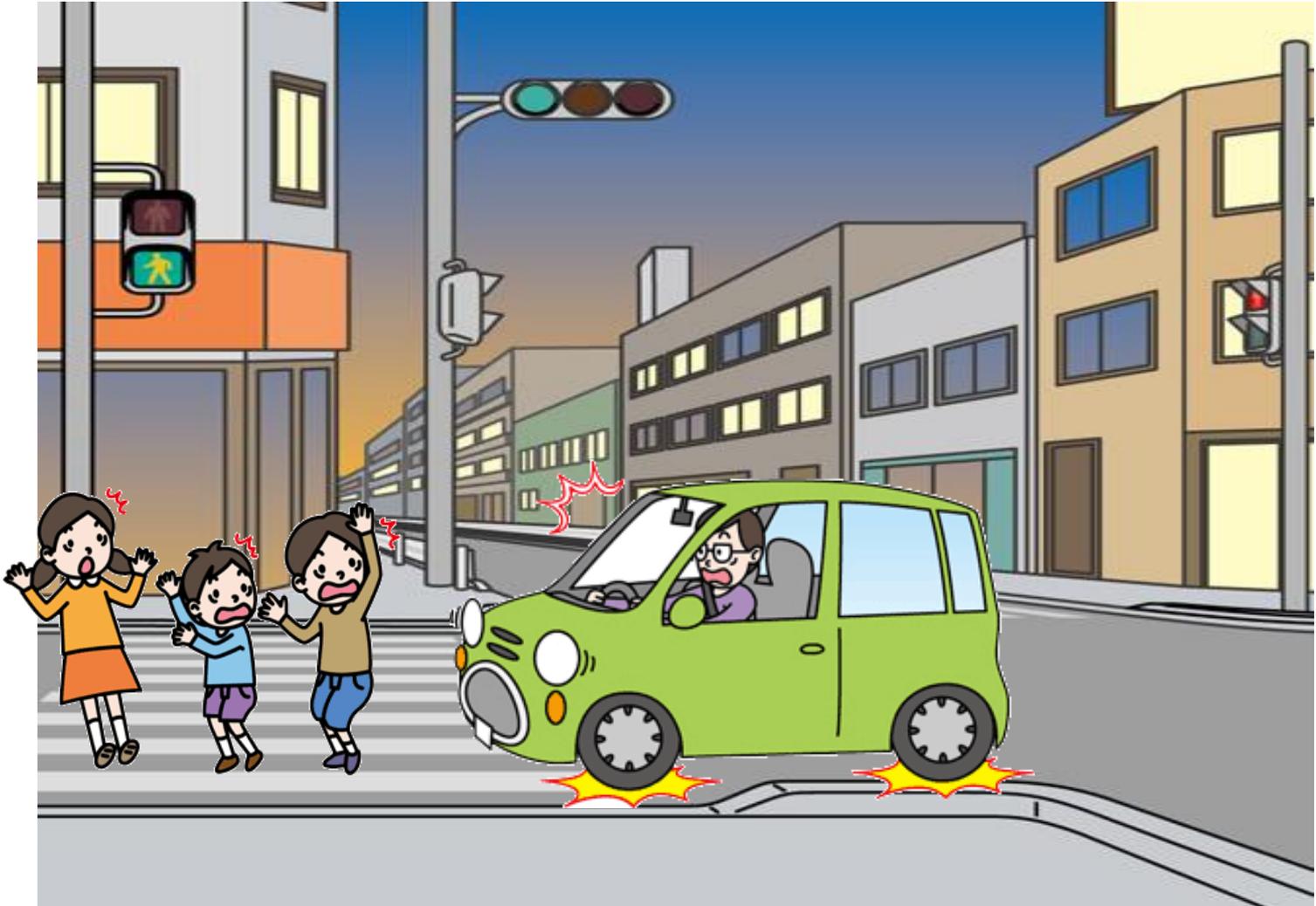
親子で学ぶ、交通ルールと 自転車の安全運転教育



① 日本の交通の現状
必要とされる交通安全教育



交通ルールを守っていても・・・



車が突っ込んできます！！
危ないから座らないで！！



横断歩道だけど . . .



(止まらない車) 2018年 約9割 ⇒ 2019年 約8割 動画出典：NHK / JAF

自転車ひき逃げ容疑で会社員逮捕

07月04日 19時38分



動画出典：NHK／愛知県警察

自転車が、前方不注視で 歩行者に衝突

自転車ユーザー増加に伴う自転車事故 増加

車が暴走して歩行者やお店に突っ込む

乗り物運転者のスマホ注視の前方不注意による事故

あおり運転による事故や事件

交通社会で

児童をとりまく社会が 悪いお手本を見せている

日本の交通社会の状況

交通事故死者数

約16,000人 → **3,215人** へ (年間/24時間以内死者数) 警察庁2020 1/6発表

負傷者数

約90万人 → **約46万人** (尾張旭・瀬戸・長久手・日進の人口合計36万人)

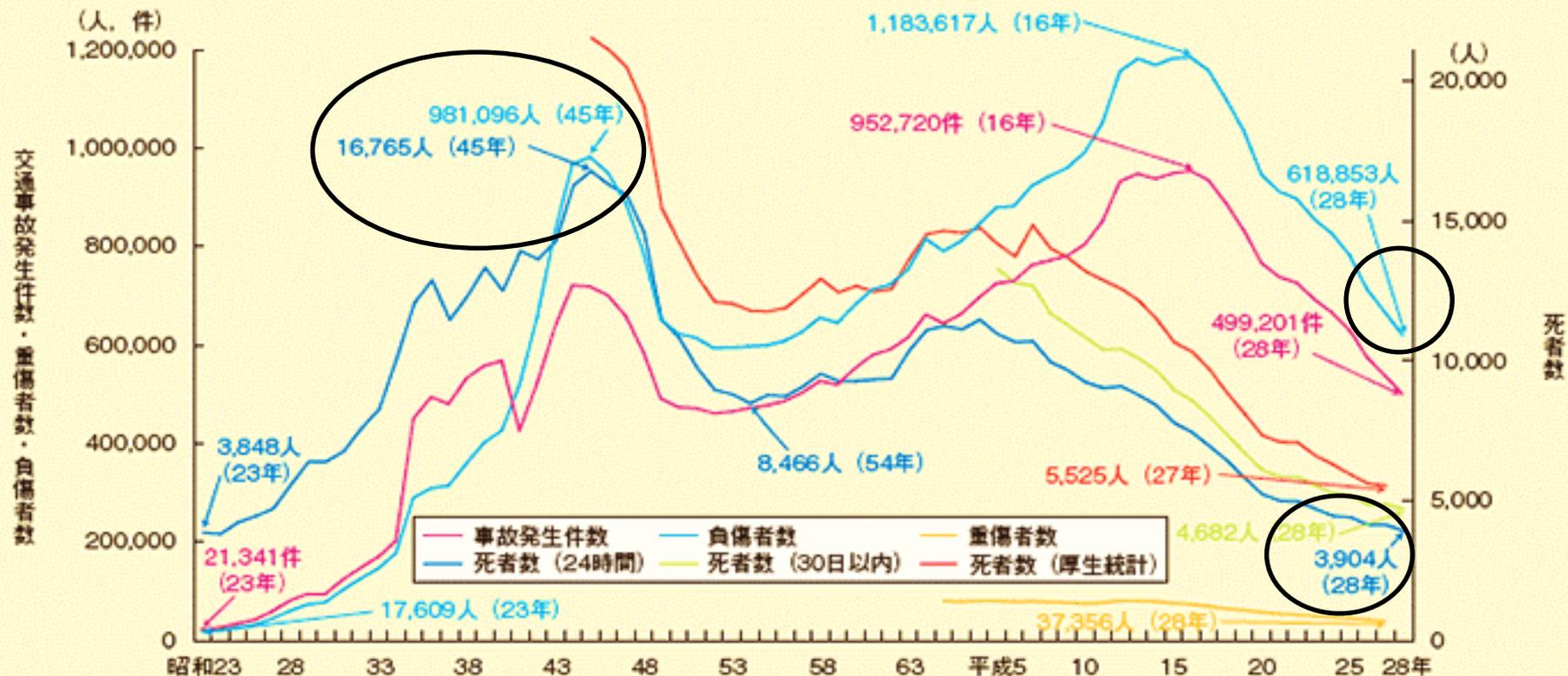
50年前と比べると 減少・・・

現実には・・・

歩行者軽視 ・ 車優先意識が見え隠れする社会

歩行者の子どもや高齢者が犠牲となる傾向が高い社会

▶第1-1図 道路交通事故による交通事故発生件数，死者数，負傷者数及び重傷者数の推移

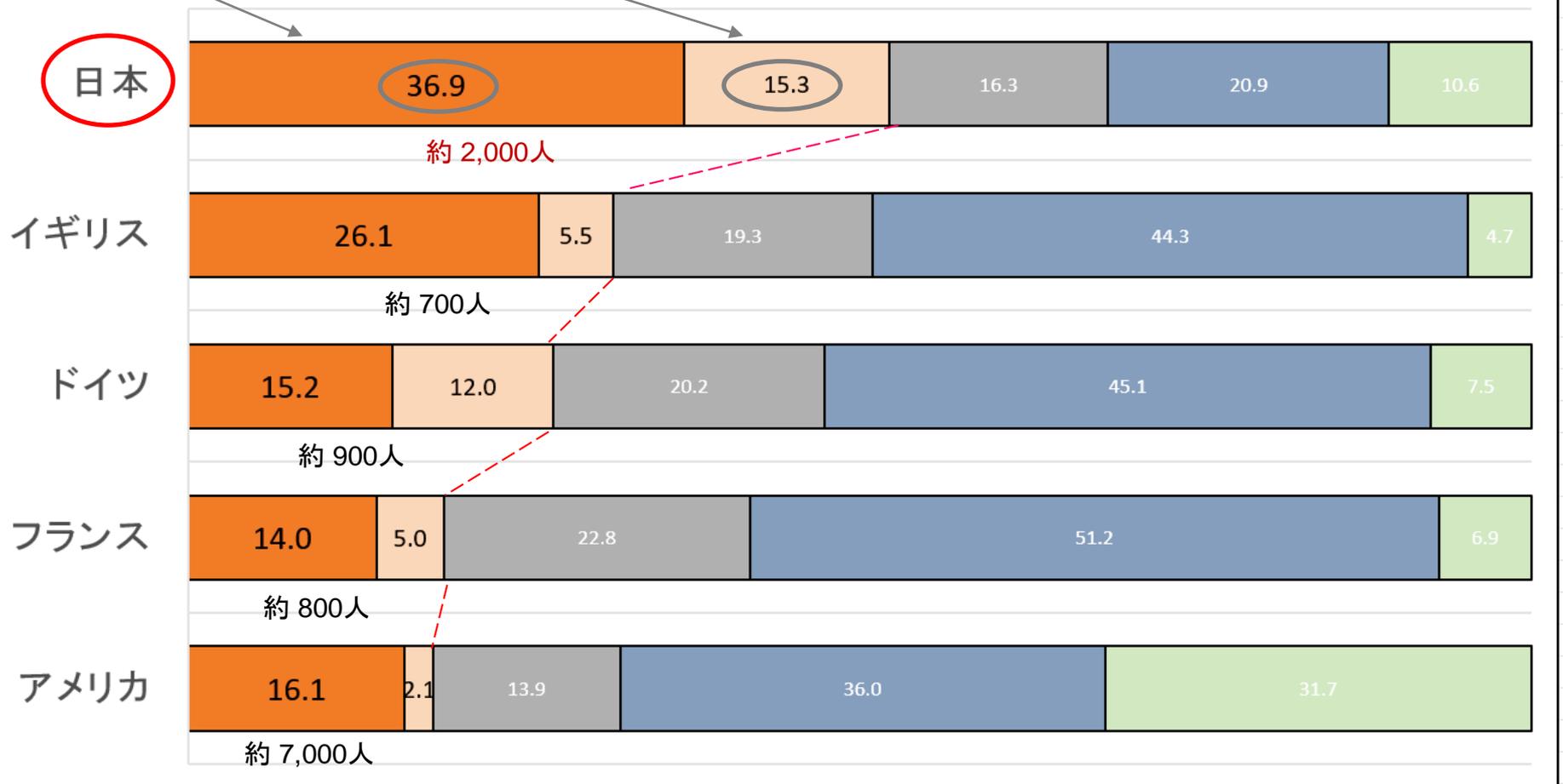


- 注 1 警察庁資料による。
 2 昭和41年以降の件数には、物損事故を含まない。また、昭和46年までは、沖縄県を含まない。
 3 「死者数 (24時間)」とは、交通事故によって、発生から24時間以内に死亡したものをいう。
 4 「死者数 (30日以内)」とは、交通事故によって、発生から30日以内 (交通事故発生日を初日とする。) に死亡したものをいう。
 5 「死者数 (厚生統計)」は、警察庁が厚生労働省統計資料「人口動態統計」に基づき作成したものであり、当該年に死亡した者のうち原死因が交通事故によるもの (事故発生後1年を超えて死亡した者及び後遺症により死亡した者を除く。) をいう。なお、平成6年までは、自動車事故とされた者を、平成7年以降は、陸上の交通事故とされた者から道路上の交通事故ではないと判断される者を除いた数を計上している。

国別状態別30日以内死者数の構成比率比較 (数値データ元:警察庁 2017年)

単位: %

歩行中 自転車乗車中 二輪車乗車中 乗用車乗車中 その他



危険予知ができる児童の育成

～交通社会の現状から児童を守るために～

自転車の運転 以前に、歩行者として安全行動するための教育が大切！

- 交通ルールに関心を持たせる



- 「止まる」「見る」「聞く」「考える」「待つ」姿勢の育成

- KYT 危険予知トレーニング の 実践

自分以外の交通参加者 運転者等の視点や状況を想像できるようにする

- 親や先生からの 繰り返しの交通安全の話

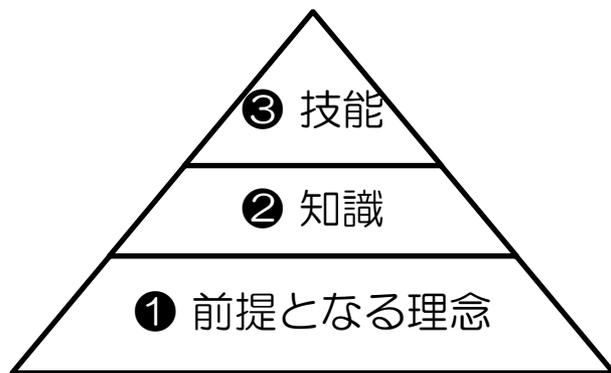
自分に都合よく考える
～だろー歩行(運転)



危険予知につながる
～かもしれない歩行(運転)

学校での交通安全授業例（市内）

尾張旭市立 三郷小学校・旭小学校
4、5、6年生 クラス別



クラス別指導 三段階タイプ

学年	4年生①・5年生②・6年生③
時間	各45分
場所	教室①② 運動場③

- ① 前提となる理念 ～公共マナーと順法～
- ② 知識 ～交通規則の知識と危険回避能力～
- ③ 技能 ～自転車操作の基本～

② OSCNと市との協働による
交通安全教育の取組





親子で体験！OSCN じてんしゃスクール



森林公園植物園 OSCNセーフティー！サイクリング



学校での自転車交通安全授業

子ども・大人・親子が、楽しく学べる自転車の交通安全教育

行政・警察・学校・民間企業との連携や協働により
地域で考え、繰り返し実施する交通安全教育

連携や協働



OSCNIの活動は全て 連携や協働により行われている

親子で学ぶ 交通ルールと自転車の安全運転教育



尾張旭市市民プール
駐車場



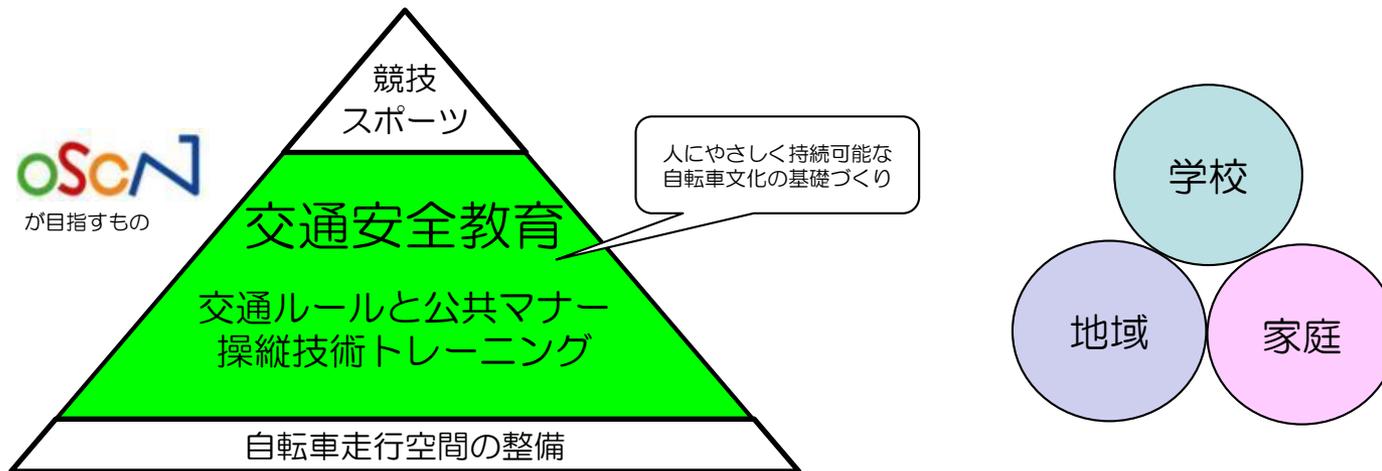
小学校での授業 交通参加者としての行動を学ぶ



旭小学校

地域と共に目指したい理想

< 10年後、20年後を見据えた尾張旭市における自転車交通安全対策 >



リスクマネージメントできる子ども

10年後といえは、小学1年生が高校生に。通学で自転車利用が急増する頃。
20年後は、おそらく自動車の運転免許を取得している。
成長していく子どもたちが、交通参加者として
自らリスクマネージメントをできるようになること、それこそが、
安全な交通社会実現への 確実な近道 である、と考える。

③ 尾張旭市での次年度以降の取組



小学生自転車交通安全教室

対象 : 自転車に乗り始める小学生

実施校 : 市内の小学校全校・授業時間内

内容 : 自転車の乗り方や運転マナー向上
のための交通安全教室

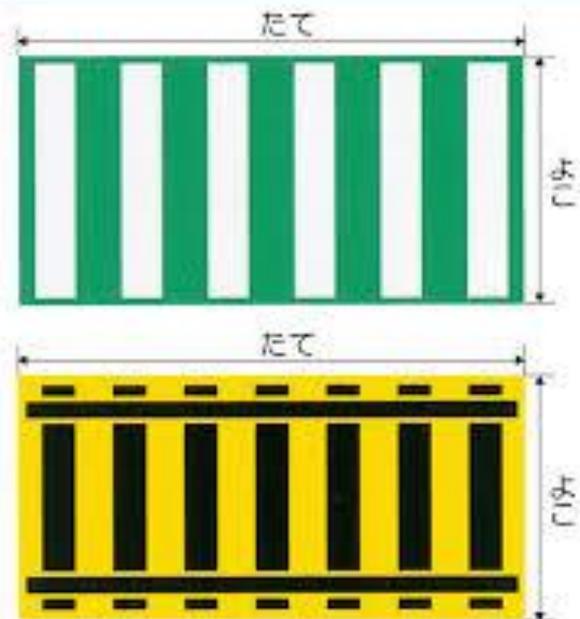


④ 交通安全教育で必要な教具

横断マット ・ 踏切マット

- ・ 室内外での横断教育に活用

50-GA-1 横断マット・踏切マット



ご清聴ありがとうございました



www.oscn-school.org